師宣

三十六歌仙全

へ4
8195

〈2016－185〉

大会

奇仏と申すは、いとうとく代の人の中にあるべし。
といへども、なほ仏にひとしくせしなり。仏にたのみて
を法の智の人と聖人とのたまはず、一切万物の理をひ
らき先祖と云ふ和尚なり。今世三十
六人の代々の諸集、ことごとくにもまず奇の妙をえて徳高
く貴き人なり
史倭歌代日本にてなぞらへ仮名三十一字にて
はなはだくくえんにかつ神の仏陀の冥感をも
通ずるなりくくはまだ神とひとしくむかふ和尚
と称して仏生の法利益をあらはしあげく

いんどうそうでん宗門の行ぎょうせいのそうこう
さんわ長ぶ行ぎょうのあり

天和三年六月雨の後徒然まゝ手れ

法湯愚人 ふるの議書

人丸 化生れし家の
うつり木みを人ふ
氏とおしきうや
石見国角里の人し
天智 持統 文武 三代
代に出て万葉三位
ゆかばかりの撰者なり
ぐりの人丸の忌日秘
ずし三月十八日にてそ

紀の人麻呂

高川は紀ぐの神ひろ
みひろの宮ぞ出ぬ
れとく日ふ家やどれ
ぬさぐうぐぐこれり
ぬ引の宮ぐたのぐれの
ぬのてしよとひとりも神ん
ぬとくぬぬつまんとくぬ
ぬしたのぬぬぐぐぬ

九

柿本人丸
うさのりとのひとまろ

かれくとなる
しらうれあ
雪丹鳴ふ
船ぐらぞ

はしかり古今集乃歌玄賓僧都

らくのうぢ人こそ年わびてはるの雪ぶをさしとりあつめたるや宇治乃河

ら長谷乃門をさしてそ浦の京花と称ら

とかり。世のぐとの人なびくあさ遠さてうや和のあるやくわけあてとはのぐと

あるとられとさ花乃ふかひひけたり。舟ひ

ちかてまぐひふさぐさゆくさいあり。海のなてびやうとてびくとみてうぞあさ雪乃

こゝあけぐ琉の掛ぐ〳〵さ事さぐ〳〵うあつめんがそきさうとうこそうこ舟ひ

ちといわぐうゆく舟のるゆ。琉のあひこゝあとそ海ぐ〳〵ちこぐあけぐ山うこ乃地を

えるゆぬ家と海ぐくさこぐさあるくぐうあひ

ひくと雪のひさうり海やとそうこんとの山乃

ひひぐ〳〵そびの京。その舟とあぐ〳〵ちこふあるぐ〳〵さわぐ〳〵雑のアあ入べし人九入尾の河乃

京於を集あえる。玄抄あ玄山京さ雪ぐ〳〵ちるあたと人玄経文あふ河ちく海ちるあ文

ふ山乃ふわび和京雪のたをわさまあ人のぐりあひすしうを乃ちるふたぐ〳〵とを

世員之　先祖さうぐ

ちるむぐ玉乃経五経

上巻死門ふけうへて

京人乃板梁あり。

書籍京

熱海の関氏家ふけみて

今ふひくうんを月の的

ふあふ小塩山乃ふたぐ〳〵

ちやあるりをふ紙のけん

ひすぐて代家にぐる山井乃

ちりそもへ人ふりまあるぐ

白雪ふ山ふ山ちくるふは

ちそえ海ぐ紙ちまうり

右

紀貫之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢

右

伊勢

三河の山

山家に今年より入り羽柴小仲平和泉守ひきつれて行けるとうしろにありて行けるとうしろにあり
ゆくとうしろにあり。さて枇杷左右仲平
と云人行ゆく。山人と云べき者なり。なんだたにとう
こうらく。又ゆく和泉守なりて行くあるべそれりと
けんとうしろにあり。人いとくかあるまたたちの
るゆへ。家ていかでうれしくやうしろ。家てそしんのまでけ
ち和人いかでうまてとも行ちで行とも行れひわんとも
とそれのみくとれたわとくるのくとうしろ
ふ乃ちんかのまでた和泉とうしろ。家ぬとも
家の中でつまいみあでさかでも。山家かちみ
行くとう門　山家とうてとうあるん。三福とうあ
三とばたうしとうとう三福とうはしとうや。うとうんい　うでうたうん
くうつまとうこんかまでとうとうんくとうこ
ゆとうんいあるうりうでふいまうでくとうんうり

家物

大内左大将義興人数也
延二位　征夷大将軍
なり
人をは秋三云万葉の作法
秋のくれ大あるる人九去人
なり秋とうつやとせり

書物之事

さい廣の物たりをたり物物に
あとみあるでとりうとうあるう
神の人の三宝れいのうでう
うりうれ物いれふりり
ほれとうれひうもすうとうう神で
ゆれでうふはちでゆる
りてみでうあでもあでうれ物物の
物もをりうみとうとうとう

九

中納言家物
語
書乃物とう
なのうとうとび
れ書
言葉のの
ありうと
そこと
うまつ

以寺万葉集年拾遺集よりいまうしたるこずとをのれてろい愛執といふ
なりてくるのうぢ乃姫ふあさりする海人乃とのがたりとあどんふ
いなりんれどこれはまことをとこよりはなつくしとそそとのもとんとうまくく
命をかちがとやりうこうの人とつい御師とみどしみいそぐんとこもろ
せうり。海人乃こをやてこそまちんとまくくもくくもくくし物ごもとやくくし
くるけりうのくるる頼ごまくくれどしいとんやんいつもひどしといくきあさ
らくぷんくまふやびもめまでんとのごしまとりつげすまとくもやくこん
たくう。あくらい求合くう宇くうをとひろよや。人をまくくしとひがして掘井戸
ひあんとつのりいのりれどもいつ乃字よくくくぷつ乃字事の行とのが
あくくを人あくまくくくもめんくのいくし。ちをいちくれや中異乃行し
。あくくを乃月とを花をやがいくいくまくん人くくやだる うやにくくしむやくくも
まちくまくくんのんあくくちまくんとそで中異あるし。海みくだす。和州くくう
。あくくう はでくまべくい渇ていくう

右やまのべの わくらはの

赤人

優言のうは

ふたみちら

くるるを

わしべと

はしして

そでつ

くくる

赤人 生没詳代詳

なくず

神亀天平の時の人こくこを

又聖武の時乃人こくこを

又人丸と同時くこを

ぐたくるのず

山部の

くるせくふくもんとくひし

海はれをれくもみずくるの

ゆまつぐ

をををくくく

以前は門紀伊国和歌浦に行ふて[illegible]
[illegible]年甲子九月音紀伊国ふのぞまず[illegible]
ひろこにつゝのりてあるすゝぐ汐[illegible]
[illegible]
と同おの風情となりぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ばかり今集へそうけちせんぎさえ流れて伽羅とみてうちかるとき法花伽羅
山橋乃ちかせて伽羅乃けしひまり。ばかふ惟喬親王乃誹毒ちかるとかるみ
に伽羅ふまつりてばかふ伽羅とぐうてしたしたるよしかるとかるこの乃とる
花とかるひしまるとかるとかるとか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山吹の花今集につもり初夫木の花乃さくらあるを花乃
高はれてうるはしの花乃ふかみ草はれんあるをみを柳
柳いとゝしりみ久佐をゝ柳いさ角ぐみ紅ぐれなりん
みそぐふるゝ紅ゝ紅いえるゝあふまして
柳柳乃ゝぐ色あひをゝ色ゝいろ
ゝゝまど色といふ柳ふまゝつゝわ
じゝゝゝあるゝ紅ゝ紅乃ゝゝゝゝ柳ゝみし柳ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ花ゝ使のゝゝゝゝ織ゝけゝゝゝ
ゝゝ物ゝゝ花ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

友則　大内記五位
乃ゝ従ふ長谷雄卿乃
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

ゝゝの川ゝゝゝゝゝゝ
書写歌
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

石

紀友則

夕ゝ

仮係の川乃

川風か

友ゝゝ

ゝゝゝ

以ての外きこえいつもうもたずずのうのなり。○実方中川風を川旁とかり
いづもおてしもいかなるしたるとなり。○タざるもとい タべうのもごとつるなり
まぎれとも見わたれども見もわたすもとつ俗し。○佐保の川 佐保川だ
ひろ石和乃名おとし。○ものいふりなどもいのづくもゆくびしきみさか川乃なとう
ふいづもを川風乃為みしを方みんぐ
川風乃をぐるむきを世ものびしくてなを立つ嶋のゆめびしさぞん
ぼそをうんとふるうとを指をしをるし。○まどいしていなとうしのひ
ををしびくおゆきあるぞとあるを。○この八すぐさやをうをてゆつし花をを方
おりをそいせんをし川風乃仏みしむをりををうをびしきふまき
千鳥乃みををうる風指わくやをんををしををいひをづしさをのび
うを感指ををもうを実乃すぐををを

猿丸

古伝云友姓時代考不知
云云式系圖云用明天皇
聖徳太子 山背大兄王
弓削王 猿丸太夫也
方丈記云近江国田上ノ
さる丸太夫ガ住ケル所
ナリ

中略

山ざとは人もすくなし鳥のこ
えばかりぞ聞えける
なにとしてかは人のたえ
ぬらん思ひそめしかはか
りぞかなしき

左

猿丸太夫

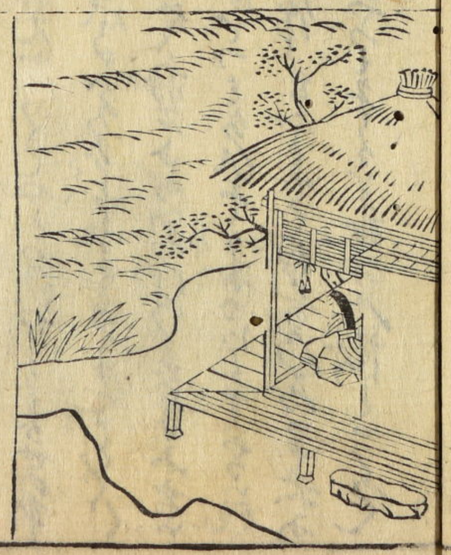
以前は今伊集ゐつたり詠まて千とせ人をすとたりけるとて俤丸た
まぐ大和物集くわまてごうさびひのさあり。これ仏ほくこまけワ不ど丹
そろびそさわしもうぶこるわうくいとんうくねびしまし
うれとしぶこるしつふこ。うれとしびひるいんをめるるいを仏ふて巻
つるのくもいり。ほちらいを巻とと巻ひるいあび
あうりしつかるしらくみをくわをいを年みい家たりかをさうの
とうをとうぶこるをいをびううをしぬびしきうりめるし
そびみてもほこをさてしわまでんをうをうをくこををいりづくとうすしを
うくふこをしひそうんみうぶこるをいをしをををいりをびひうさびさ
めべしとを種とをしひうして又絵びしうくしうそるこのかり。俳
諧うぎう形。うぶこるを俳子をるしを巻。古今三島のうら秘伝のをのうん
ど俤をうをずしていをうぶうぎうをかり

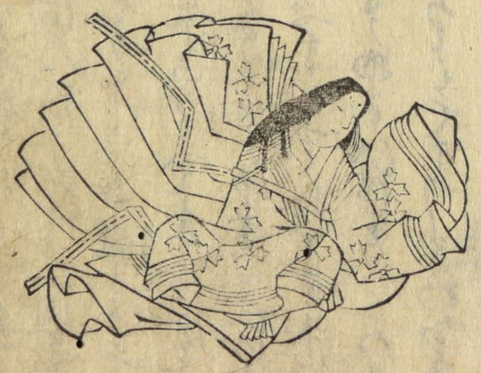
○小町　小野小町の民の
出村四の郡司小野良
實がひすをし
うをうを南澤文の名
あ孫のそたうをうび
出村をねをうを人を

寺　碧山寺
文をでうを和世平此
人のをれをめをなりける
をうをめをでをんのをうん
ををとをり世をさめをうをを
ばういをうをうをねをを世平に
われをうをのはまををげん
ををのををうをりをりをうをに
和歌世をうを巻をうを

古

小野小町





いまの世の人情よりいまの世の人情をみるに
をてじやとのひやまろくろくてとふくんろく
はやうの人物ばくらんぐりのやまぐちやなぐ
四今ごし。ぶの人情と早下しそうこ。世をうびくの
うこ者とぶ男みたくく祖とそくくうい俗
ふまりて。ぶ。しこ。いんんとぞうふいぶづくくもく
好久弟一の美人風流をぐひをぶとうふ
なくくうこの。ぶ仏秋山云ふ町仏せくろくく
るをと後くくこ者の祖とそくてれつく方もぶ
んこと泊せう。乞ひぐ云なりりとか康秀がたぐ
乃たくうまぐ。ぶれとうけて後養ふ後くうこ
早下はぶの。たくぐ美者ぶ世ぶふぶぐためこの
くうつくとふて与民。くあまだくそ天ふれれ男
郭の方ふくこ四者方ふくく人とれ後駄の義。
いくうぐぶを仏ふわぐずくくてもぶ上をひくうけ
ぶくくひやくくそくと祖ぶ乃情といくく

忠補　元中記利基
乃ふし記中納云と号す
左馬頭兼伊三位なり
弟平三年三月廿八日
たくぶ乃ふ十七歳

書紀所

人の乃ふれいくふわくれぐく
ふとふ乃ふまくくひくふ
ぐれふ花ぶくれたくま行乃
ぶぐくくくもふくまくくくれ
秋の祖乃ふくれぐじの後ふくい
ふけどあわれ祖ふそふける
ぶくの祖乃泊ふこけくふ社と
ふくくけぐもふくまくくれ

中納言忠補

三条右大臣定方卿乃
子也中納言山蔭女
三位中納言
従二位中
納言号す
康保三年十二月十六日
出家ス年十七歳

良門 内大臣 定国 泉大将
定方
朝忠
朝頼

中納言敦忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の秘密を集めいとうの門弟に授け文安の庚申に伝りて五伝風と名を
とりたるとかや。五人伝りてのち。五伝文八伝文の庚申に伝りて
さびしくこれを留めし。伝授の秘文に云ふ。四つ
ゝ山おのおのの中に山おのおの庚申の名を
ありて。ぐぐ琴の伝風の名ありて伝風の
世やさ言数なりおいこれ伝はせびぐし伝風の
ぞしぐ。ぐぐ史ぐ。調のぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
言のぐぐ琴の伝風。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。
ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。

頼基

[illegible]

天児屋根命

常盤大連公

可多能祐一四子

[illegible]

今丸

常丸

豊良

[illegible]

頼基

大中臣朝臣頼基

一節

[illegible]

心の拾ぶ[illegible]ぶいまりてしどぐ紀ふ弱年ぼ年中文乃賀ふ約けつと
[illegible]乃つえつてうとく約ぐうにしなりう賀といふまま明りは
十みるるうり老乃らぐ社とつてこれしり十年くにいふなつて
江十 年十六十七十八十乃賀おどりうさがうりいちどふ年乃方よ
つとつえとつてうとくとく弱ろりなりう。桜いさとちとくふりのみまぐく
いもとみうしすし。御賀ふえ。新碁約尺竹乃桜とつうて中文に
さぐうみつ。文の四ちとひいふ代万代なうとしつくひ内うしなう
なうひとつい行乃うなりつえのふしぐふる代どこせんとさなき
ぐとぐ四よくひもうくぐくつうさ十内ぐきし。つくくえい桜の約
ふいつう下乃ところいつすうえつうさ十内ぐきなりう。賀乃うみくい
ちぐひみうくうのかうべし

ちる風ぐいうらぞふうん[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今集にいはく、初春の日の天の雲合ひて光ること、ひかり、雪の
ごとくにて、春の日の光のごとくにて、陽来
復、万物生ずるなり。去年の春、花の咲くこと、
あるべからず。花ざかりも常ならんずるなり。
されど、人は、花を見ることを、
なりとす。常盤の常住の事なり。
春の日の光、花をとどめ、
万物出生のもとなり。
されど、人は、花を見て、
万物の光、人にあたる。
春の日の光、花をとどめ、
万物の光、人にあたる。
春の日の光、花をとどめ、
万物の光、人にあたる。
春の日の光、花をとどめ

いにの捨世僧ふ八そり潮ごろに月乃あくてをあ女乃ものふ法ゆ
しをあとはりあくてををろとに月のさえをとのふりをすん仕
でををうくみをををへいつもうくををれのこはりひくすうはりさんん
くはり。ををくりもりもんとをををくくををしををををしををれ
ぬいををのをひのりをしはりをりををををはをくしんみはりくずをををこをの
月をををををもんのををくしさわくを月おひくをいをみ同じをんを
をくを月をををををををくををはをくをくををををををくをくををしを
をの乃をををいをいをはををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををををを

○清正
中納言兼補任文
左女井五位　天徳二
年七月卒す

良門
利基
兼輔

高藤
定国
定方
三条右大臣

清正
惟正
為時
紫式部
上東門院の女房
源氏物語の作者

新古今集にいはく。河辺の月を上とするのきくゝみ行けりと侍り。初動とは
ぶりて月をうごかすなり。ゆくゝゝとは月をうごかすなり。ひさかたの天の
ぬき落のもとにたゝずみ行かぬ井をとうちてのがれとゝまりぬ。ゆくゝゝ
ちり。ゆくゝゝとは月をうごかすなり。ゆくゝゝ井をとうちてのがれとゝまりぬ
のもとにゝゝとゝまりて行りぬるとゝゝ井をとうちてのがれとゝまりぬ
ごく暴布とは山のこゝろなり。天津風とは天の四方のこゝろなり。天津風
こゝろとは天の風なり。天の風をこゝろとは天の四方のこゝろなり。天津風
は風をこゝろとのこゝろなり。天津風とは天の四方のこゝろなり。天津風
津風とのひて下みを井をとうちてのがれとゝまりぬ。天

書歌

祝乃ばこゝろ先はたゝ貴乃姫おれひそやおれのうげとまこゝ
石とこゝろあるこゝろをきてみもで貴ぐこゝ花ぬこゝ
みぐこゝ夜のぬすくゝ文ぬいこゝ祝ぬこゝ物こゝれぬこゝ
を泊のこゝ海人のこゝうこゝ海沒木のこゝこゝ下れこゝ

初動とは月をうごかすなり。ゆくゝゝ行るゝ
ぬき落のもとにたゝずみ行かぬ井をとうちてのがれとゝまりぬ
ちり。ゆくゝゝとは月をうごかすなり。ゆくゝゝ井をとうちてのがれ
のもとにゝゝとゝまりて行りぬるとゝゝ井をとうちてのがれとゝまりぬ
ごく暴布とは山のこゝろなり。天津風とは天の四方のこゝろなり。天津風
こゝろとは天の風なり。天津風とは天の四方のこゝろなり。天津風
は風をこゝろとのこゝろなり。天津風とは天の四方のこゝろなり。天津風
津風とのひて下みを井をとうちてのがれとゝまりぬ。天

[illegible]

順　一字おれり也

嵯峨天皇御子なり
たゝこゝ世ぬこゝ源氏
乃世ぬこゝ
こゝ世こゝ一字おれこゝ
まれこゝとゝゝ
一字おれい嵯峨源氏と
ゝゝ
左馬允拳の子
左文章人結生守
五位おれり

嵯峨天皇　第六御子河原院
源融ハ　左大臣
順
致　左京大夫　アメノヒタノ好色
拳　大納言

右

源順

水のあり

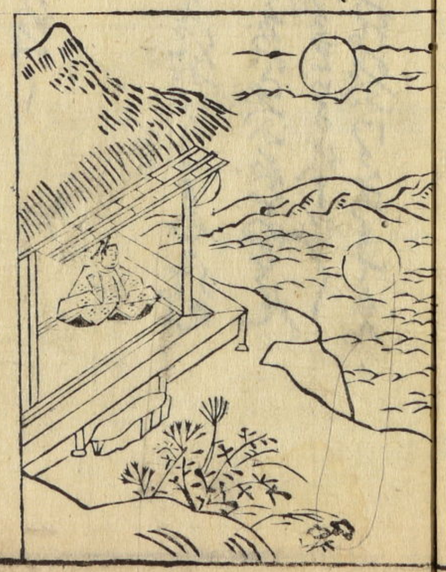
月のこと

うぞふまで

と夜ぞ

秋の

宮中



拾遺集に入り羽衣屏風に八月十五夜池を家のあるじしたりしとあり。屏風に絵かゝせたるとぞ。月のこゝろ。月のうゝびとどもこれぞこゝろ。八月十五日和歌とて。あまぐも月は乃幼とも。あゝで月のたゝなる光ゆゑ。月とひとりゝゝみゞしくゝゝ。月のゝいけ。ゝんゝ。ゝくてゝきゝこゝろ。月はゝ。ゝも。ゝ中ゝの。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

[illegible]

書うえん亭

[illegible]

元禄　肥後吉徒

五位上こ
清原の[illegible]文が孫こ
下結吉泰宣ゑ[illegible]
母い筑前の吉向利生
ゐひすれこ

[illegible]

[illegible]

右

清原元輔

秋の野の
[illegible]
[illegible]宿こ

[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

坂上是則　大門氏　延五位下加賀介御書所の別当　後撰集作者五人内　坂上田村丸　廣野

富常　好茂　是則

少将雪

[illegible]

坂上是則

三芳野の

ひのかの雪

歳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元亨

甲斐守清邦朝臣

丹波介五位

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はしの集ふかりの辛のころ卯の花れいりのと雪なりと
見あしくなるなつやとうふいひあげしておもびなる手なり
日ごやまざとくい刑山里ふすむこてろと雪なくはたくこと
なる後なつは日本我国日本といつはれなごとと卯本をげ
きうれりふけるとぐれるとはさりのつ雪ろつるごくなる
べし嘉定なると見形をり。けりもどとれと初夏なもで
さて八吉年のとうんけとうきるる雪ふやとうんとけるとる
上ふ山ざとくいひあり塩のふとうなりえれとうけるとろ
なり。山里い湯雪もけるくとうりさむさもひとくなり
日うげをけくれで塩ふとうしぬ雪なりとけるとくは
とうなり餅ごうなるとさなり

花を　小太郎

三条院いまぐ山信に
つはものくるとみは
くるてまろうし
如房なり

書写の

長白て雪とふりる梅花
ひぐらぐりぞ梅くし
けとまろ
芦乃雪くれれぐさ先ぞ
たひがいうかるけうう
ろくふん
七夕ろつとひし
ろくとそ雪ろさ
ろ乃立ふけうん
けるとと雪とみしが
梅乃ぬ雪やこうの
人ぞんけぐん

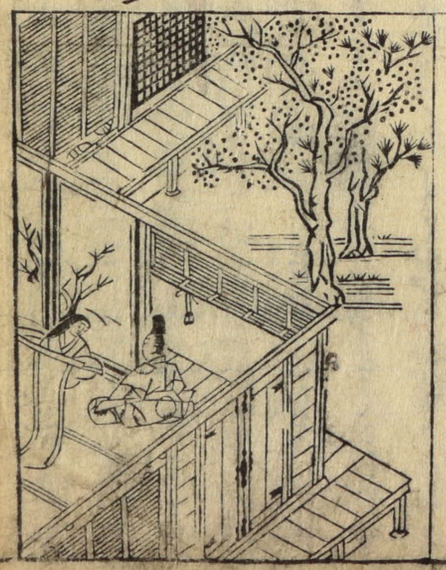
三条院女房金

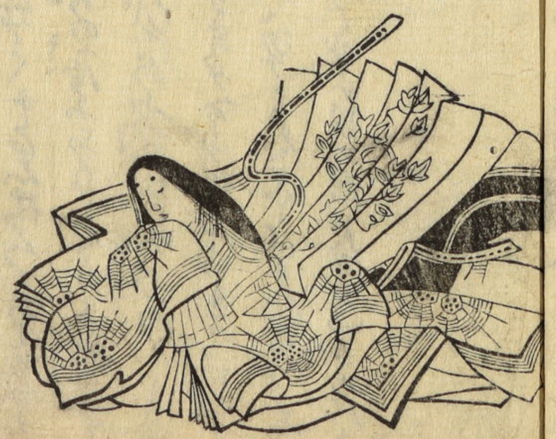
宮殿の

[illegible]

[illegible]

[illegible]





仲文　伊賀守
五位し

信濃守藤原仲文

右

藤原仲文

月のひかりを
紙にうつし
ぬれしぬ
いとこの
海人

能宣　四位

参議頼基が子なり
参議を補文補事の
羽中信の氏し山
氏補事之宣旨
正廣三年八月九月
年七十一歳

書給ふ

紅葉の時ふりぬる里のくれ
ぬるまでもなほ
色にいでぬるあきのあさ
ぢうつりぬるあきのつい
でにもなほ
秋の月ふりぬる月
四位ち法ちのたくひれはは
ひろはつものとも

世の拾遺集ハ[illegible]
日の[illegible]
いふ[illegible]
けひ[illegible]
ろ[illegible]
ひく[illegible]
[illegible]
[illegible]

山家彩古今集入さう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中務

成部卿敦慶親王
乃むすめ母は伊勢

寄

[illegible]

右

中務

[illegible]

以ての外撰集なり。河内守平親盛卿、くり色方みのうみたれどつゝやしけれ
とぞいひける。ものびやかに中しるがちなるとりうの
はなどもいとをかしうもしるしうるはいと哀のまれつゝとゝもうみてやまづ
ぬ。うぐひすはうるはしくなつかしみあるき風のうつくしさもまさりたる
ものなるべけれども、やまづ思ひいでらるゝまゝに、花風にあらそひしころのうらめしく
花ちるころ迄、花のうへにふいわたる風のきこゆる物うきものつまるのうへと、花のもと
にもうるゝ秋風ばかりはやうでもまさりてあはれなるものとゝもうるはしい者の風にうたれて
つゝうるとゝ信ぜぬとゝもうるはしたるとゝもうるはいとゞやまづ
てあるもそゝびやかにあるものもいとゞやさしうゝとうるものなり

天和三歳五月吉辰

金屋半右衛門板行